

グローバル・サウスの盟主としての足場を固めつつあるインド！ 実利ベースでの「全方位外交」政策を推進

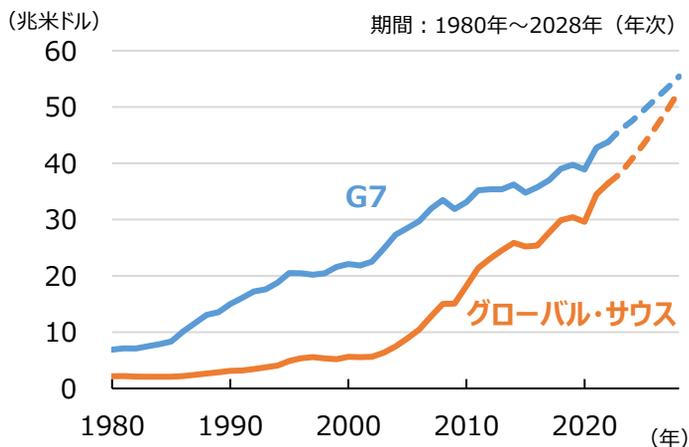
パワフル・インド（政策関連） ～途上国の代表として更に高まる存在感～

▶ グローバル・サウスの盟主を自認するインド

「グローバル・サウス」について明確な定義はないものの、南半球に多いアジアやアフリカなどの新興国・途上国の総称で、主に北半球の先進国と対比して使われています。特に経済成長が著しく、本年G20の議長国を務めるインドは、「グローバル・サウス」の代表格として、存在感を増しています。2023年1月には、気候変動やエネルギー・食料安全保障といった途上国の懸念を共有するオンライン会議「グローバル・サウスの声サミット」を開催し、G20に向けた意見交換を行いました。

2023年5月に広島で開催されたG7サミットにおいて、印モディ首相がG20議長国として招待され、「グローバル・サウス」との連携が大きなテーマの1つになりました。更に、米バイデン大統領も6月にモディ首相を国賓として米国に招きホワイトハウスで会談を行い、防衛や商業における協力深化で合意する等、インドの重要性はますます高まっています。

名目GDPの推移



▶ したたかなインドの外交政策

自陣営への引き込みを目指す大国からの働き掛けが強まる中、インドはいずれか一方の側だけにつかない、「全方位外交」政策を維持しています。日本、アメリカ、オーストラリアとの4カ国の枠組み「クアッド（日米豪印戦略対話）」に参加し軍事や安全保障などの面での協力関係を深める一方、ロシアとも歴史的につながりが深く、引き続きロシアから原油や肥料を廉価で輸入しています。又、中国とロシアが主導する「SCO（上海協力機構）」にも加盟しており、7月に開催されたオンラインベースでの首脳会議では、議長国を務めました。このように、インドは自国の存在意義を活用しながら、グローバルな枠組みの中で重要なポジションを確立しつつあります。

インドの独自の外交姿勢



ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会